

提出日：令和 3 年 2 月 20 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 塚本 健司 職位： 教 授

## I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
<p>動物衛生学、家畜衛生学の中で、感染症の制御に焦点を当て、病原体の特性、疫学、予防対策、伝染病発生時の対応について、知識を整理、統合して積極的に取り組める畜産技術者、獣医師を育成している。また、複雑、難解な農場 HACCP の普及のために、本制度を解かり易く説明し、指導員育成を支援している。牛伝染性リンパ腫の衛生対策ガイドラインの長所と短所を整理し、より効果的な対策をまとめ、学生に指導していく。</p>				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
動物衛生学	動物応用科学科	必	A3	150
動物衛生学実習	動物応用科学科	選	A4	50
家畜衛生学 II	獣医学科	必	V4	130
家畜衛生学実習	獣医学科	必	V4	130
獣医総合臨床	獣医学科	必	V5	130
獣医学概論	獣医学科	必	V1	130
総合獣医学	獣医学科	必	V6	150
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）				
<p>畜産農場の現場では、収益の減少が年々、進む中で、衛生管理については厳格化、高度化が進んでいる。このような背景において、畜産技術者、獣医師は衛生管理を効率的、効果的にを行い、感染症の被害軽減を推進しなければならない。衛生管理に関わる技術者は、基本事項（ワクチン、消毒薬、抗生物質、殺虫剤、衛生管理、飼養衛生管理基準、防疫指針など）の正確な理解に努めて、衛生管理上の問題点の発見、病原体の潜伏状況、病原体の制御低下の原因究明、対策の確立、検証、改善を推進できる能力を身につけた学生を教育したい</p>				
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）				
<p>農場 HACCP と食品 HACCP の違いを説明できること、糞尿に汚染された畜舎の消毒に有効な過酢酸の消毒効果、農場 HACCP の認証取得を指導できる技術者の育成、清浄化が困難牛伝染性リンパ腫の効果的な清浄化プログラムの助言などを講義で教育している。これらによって、現場に役立つ技術者の育成に努めている。</p>				

アクティブラーニングについての取組

特になし。

ICTの教育への活用

畜産現場で利用されることが多い統計処理法である幾何平均、症例対照研究、コホート研究、平均値の差の有意差検定、経済疫学について、例題を使って説明している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業、実習）の創意工夫（A）

②学生の理解度の把握（A）

③学生の自学自習を促すための工夫（C）

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

⑤双方向授業への工夫（C）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

学生の自主学習を促す工夫、双方向授業への工夫が不足しているので、これらの点について具体的な改善をどうすべきか、考えて行きたい。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

過去に出題された問題に関連する情報をまとめて、理解し易い情報として紹介するようにしている。

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

時間内に終了するように、時計を見ながら従業を進めた。

眠くなるとの視点があったので、教員自身が楽しめる授業を行うようにした。

② ①の結果はどうでしたか。

時間内に終了できた。

畜産現場で役立つ授業を前面に出すことで、教員も楽しく授業ができ、学生の試験成績が改善された。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

昨年度と同様の方針で授業に講義、実習に取組み、向上を図る。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

テーマ毎に基本事項を解りやすくまとめて講義すると共に、テーマ相互の関連性を示すことで、全体像を把握し易いように支援している。また、試験に基本事項を頻出させることで、知識の定着を図るようにしている。現場で役立っていると考えている。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

学会の若手ポスター賞（鳥インフルエンザウイルス PB2 の機能解析）の受賞、特許出願（サブポピュレーションプライマーの設計法）。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

基本的にFDに参加し、勉強しているが、自分の講義にどう取り入れるかまで発展できていない。教育関連の本を読む。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

現場の研究報告を講義で紹介することで、実践教育を強化したい。

全ての基本事項を講義の中で紹介するのではなく、基本事項は資料として提供しつつ、講義では、その要点を記憶に残るように簡潔に表現したい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ